

S君の学力分析

2018年11月15日

彼の中学校1年の1月の行われた学力調査の成績は、英語19点、数学15点、国語13点、理科33点、社会23点だった。

私はいつも点数だけではなく、その生徒の問題用紙と解答用紙も必ずコピーさせてもらうことにしている。なぜか。それはその問題用紙と解答用紙に、その生徒の思考過程や試験中の心理が書かれているからである。それは数学・理科の計算過程のみならず、リスニングの書き取り、英単語の意味書きや日本語訳、国語や社会のアンダーラインや囲み線、古文の現代語訳、漢字の試し書きに、いたずら書きやちょっとしたイラストにも、その生徒の思考過程やその時の心理が表現されている。

そこで、提出された彼の問題用紙と解答用紙のコピーをじっくり分析させてもらった。英語の単語力不足のみならず、単語と教科書本文の音読不足、基本本文（新出文法）の理解不足、数学の数単元の基礎基本の理解不足、国語の著しい読解力不足、と分析していくうちに、社会の記述問題に対しての彼の解答に、「えっ？どうしてこんな答え方するの？」と、目が点になった。即ち、彼は出された問題に対して、ちょっと的外れな解答を書いていたのである。振返ってもう一度、英語や数学（文章題）、国語、理科の記述問題の彼の解答を見直した。すると的外れな解答とまでは言わないまでも、少しずれた解答を数個見つけた。これは、教科別担任制を取っていたら分析できないことである。当校では小学から中学・高校までの英数(算)国理社の5科目の全教科を指導してきた者（私であるが）が学力分析をするから、こうした分析・指摘ができるのである。

そこで、その結果を受けて相談に来たご両親に、彼の根本的な課題は国語の答案に歴然と表れているように、読解力不足が国語のみならず、英語や数学、理科、社会にも影響していると指摘させてもらった。そして、その文章の読解力を付ける具体的な学習方法も提案させて頂いた。半年後、2年生の2学期の定期試験で合計38点アップが見られた。